

絆をつむぐ学校間連携・地域交流の推進

～魅力ある学校づくり調査研究事業から地域協育ネットへ～【周南市 岐陽中学校区】

地域の概要

岐陽中学校区は、周南市の中央部に位置し、文化施設に恵まれ産業の盛んな地域です。

徳山、岐山、遠石の3つの小学校区からなり、それぞれの小学校には公民館が配置され、地域と学校が手を携えて、学校づくり・地域づくりを推進する環境が整備されています。毎年開催される地域行事やお祭りには、小中学生がボランティアとして積極的に参加し、地域の新しい担い手として活動をしています。

人口	22,813人	
世帯数	11,019世帯	
対象校及び 児童生徒数	岐陽中学校	629人
	徳山小学校	672人
	岐山小学校	456人
	遠石小学校	431人

※徳山小学校は約9割の児童が岐陽中学校に入学。

※遠石小学校は約5割の児童が岐陽中学校に入学。

組織の内容

岐陽中学校では、平成24～25年度、国立教育政策研究所から「魅力ある学校づくり調査研究事業」の委嘱を受けています。この事業は、児童生徒の豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育成することにより、不登校の未然防止を推進しようとするものです。校区内にある徳山小学校、岐山小学校、遠石小学校と岐陽中学校の4校を中心とした協議会「魅力ある学校づくり調査研究委員会」が立ち上がり、子どもたちにとって「毎日行きたくなるような魅力ある学校」とはどんな学校なのかという主題を研究するため、4校が一体となって協議や共同の実践を重ねています。各学校から事業担当者が参加するこの委員会は、中学校区全体を視野に入れた望ましい学び舎の形をつくっていく場です。具体的な取組としては、授業の中での学び合いや自己決定の場の設定、他者とのかかわりのある体験活動の充実、異校種間・小学校間・地域間の交流の充実をめざしています。

周南市では、平成24年度に全小・中学校にコミュニティ・スクール制度が導入され、岐陽中学校区内の各学校の学校運営協議会でも、「魅力ある学校づくり」の具現化のために、各委員からの意見を集約しているところです。コーディネーターが配置されていない学校もありますが、地域人材をよく知っている委員を通して、地域ボランティアの発掘や集約も急いでいます。

これらは、地域ぐるみで子どもを育むための取組であり、岐陽中学校区における地域協育ネットの推進となっています。調査研究事業を通して各学校が共通の課題を共有し、各学校の運営協議会で支援の在り方を検討することで、学校・地域の絆を大切にしながら、子どもたちを見守る仕組みづくりが進んでいます。

周南市の中心校区として、小中連携を活発に行い、子どもたちの健全育成のための具体的な手立てを地域と連携しながら進める岐陽中学校区の取組は、他の中学校区の参考ともなっています。

